

2015年8月23日

民主党幹事長
枝野 幸男 様

若い世代の活躍についての提言

民主党青年委員長
黒岩 宇洋

多くの尊い命が犠牲となったさきの戦争から70年の節目にあたり、若い世代の今後の活躍や役割について、改めて考えなければならない。戦争を経験したことがない人の割合は人口の8割を占めるまでとなり、戦争が記憶から記録、歴史へと変わりつつある。

「若い人たちが声を上げてほしい」「若者だからこそ頑張って欲しい」

我々若い世代の議員が地元をはじめとした地域活動の中でよく声をかけられる言葉である。多くの国民は、若者に期待をしていると我々は実感している。

我が党は、かつて旧態依然とした自民党の対抗軸として若い世代からの多くの支持を集めた。しかし現在、党所属青年議員(概ね45歳以下)は3年連続で1割以上減少し、20代の党所属議員は一桁台に落ち込んだ。また、さきの統一地方選挙前半戦では20代の議員を誕生させることができなかった。若い世代が民主党を支持しないだけでなく、志のある若い世代が民主党から立候補を目指さない状況も課題になっている。この状況は現時点で民主党が若い世代の政党とは言えないと自覚せざるを得ない。

来年から18歳に選挙権年齢が引き下げられる中、若い世代の活躍に大きな注目が集まっている。このままでは、新たな支持層を獲得することが出来ず、世代交代が進んでいく中で、長期的に民主党の支持が減少していくことが危惧される。

以上の点を踏まえ、提言を行う。

- 一、 女性候補者擁立方針のように、若い世代の議員を増やすための数値目標などを設定し、その実現のためにあらゆる施策を講じること。
- 二、 党運営に若い世代の議員が深く関与できるよう、例えば党本部または各都道府県連の重要ポストに若い世代の議員を積極的に登用するなどの方針を打ち出すこと。
- 三、 学生を中心とした若い世代を民主党に取り込む都道府県連の活動に対し、党本部として必要な支援体制を構築すること。

これらの提言をもとにした、若い世代の議員の声を反映する組織運営を行っていただきたい。その第一歩として、当提言に対する具体的回答を望むものである。

以上